

福祉人材センター × 介護福祉士会

2024

8月

No. 37



ふくし・かいご通信

発行：社会福祉法人北海道社会福祉協議会
北海道福祉人材センター ☎011-272-6662



北海道福祉人材センター
HPリンク

北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。

今月のテーマ

私のかいごストーリー

一般社団法人北海道介護福祉士会日胆支部 杉本 司 氏

社会福祉法人えりも町社会福祉協議会 介護支援係長

えりも町社協居宅介護支援事業所 管理者兼主任介護支援専門員



エピソード1「学生の頃の経験」

私は高校生の時に接客業のアルバイトを始めました。人見知りで内向的な自分にアルバイトが務まるのかと自分自身でも不安でしたが、何かのスイッチが入ったかのように人と関わることの楽しさを知り、自分自身でも驚くほどでした。その一方で、進路を決定する高校3年生になっても将来の夢もなく、本業の「学業」ではなく「アルバイト」に精を出す毎日でした。

高校の選択科目で「授業が楽そうだから」と安易な考えで福祉科目を選択し、授業の中で学生数名で高齢者宅を訪問するという課題がありました。訪問先は高齢女性の一人暮らしで下肢に障害がありながら家事を自分で行っている方でした。学生の私たちに飲み物等を用意してくれたり、昔のことや生活の中での困りごと等、様々な話をしてくれました。この授業の中で「人と接することの楽しさ」を感じることができ、言葉では表現できない感情を抱いたことを今でも鮮明に覚えています。そして、この福祉授業を通じ、福祉の仕事に対して興味を持つことができました。

当時の自分には、授業で感じた感情を親や先生等に話せる勇気もなく、高校3年生の進路相談でも、「とりあえず就職で…」と考えていました。私は母子家庭であり、経済的な面からも進学は難しいと自分の中で決めていましたが、地元での就職を探す中でやはり福祉授業での体験を忘れられず、「介護の仕事をしたい!」との思いから、介護の仕事を目指すことにしました。

しかし、介護施設からの求人はあったものの「女性は募集しているが、男性を採用する予定はない。」との現状であり、介護の仕事諦めることとし、地元の一般企業に就職をしました。



エピソード2「諦めきれない道」

就職してから1年後、正社員登用の話があった頃、介護施設から「就職しないか？」とお誘いの連絡がありました。やはり介護の仕事を諦めることはできず、正社員の話を通り介護の道へ進む決意をし、私の介護ストーリーの幕開けです。職場には同じ年齢の1年先輩、年上・年下の同期等、様々な人が働いており、楽しい事ばかりではなく、体力的にも精神的にも大変なこともたくさんありましたが、入所者の「ありがとう」の一言で疲れは吹っ飛び、高校の福祉授業で感じた「あの感覚」が蘇る日々でした。

その後、介護の仕事は経験だけではなく、知識も必要との思いから、介護福祉士、社会福祉主事、介護支援専門員の資格を取得しました。働きながら勉強することの大変さはもちろんのこと、教材の購入費や受験費用、旅費等、経済的に大変でしたが、資格は一生もの。自己投資の思いで乗り切ってきました。

エピソード3「新たな道への挑戦」

特別養護老人ホームで8年間、介護職を経験し、高齢者介護だけではなく様々な福祉を学びたいとの新たな夢ができ、平成24年より現在の職場である社会福祉協議会へ転職をしました。

入職当初は、「福祉専門職なのに給与計算？」等と前職の介護職とのギャップに疑問を感じることもありましたが、所属する介護福祉士会の先輩にその事を相談すると「それも今後の糧になるからね。」とのアドバイスがありました。現在では介護サービス事業所の運営に携わる身となり、あの時にした事務作業が事業運営に役立つことができた実感しています。

また、自分自身の福祉領域の知識を拡大するために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取得し、これもまた自分自身の財産であり、商売道具とっております。

現在は居宅ケアマネジャーとして勤務していますが、生活困窮者の方、家族に障がいのある方、身寄りのない方等、様々な課題を抱えながら生活する方がたくさんおり、日々が学びの場であり、まだまだ成長期（体型も…）です。

また、北海道では「次世代の担い手育成推進事業」として、福祉教育アドバイザーの派遣を行っており、私自身も介護福祉士会からの要請によりアドバイザーとして小学校や高等学校へ福祉授業として高齢者体験授業を行っています。過去に体験授業を受けた生徒が現在、介護福祉士や看護師等として様々な福祉現場や医療現場で活躍していることを知り、あの時の体験授業が少しでも現在の職業に役立てられていることを願っています。

私自身も福祉授業での体験がきっかけで介護の仕事に興味を持ち、そして約20年間福祉・介護の仕事が続けることができています。介護の仕事は3K（きつい、汚い、危険）と言われていますが、私は『価値のある、感謝される、感動できる』の3Kであると考えています。みなさんで介護の仕事が新たな3K（価値のある、感謝される、感動できる）にイメージを転換できるよう、ますます介護・福祉の仕事を盛り上げていきましょう。

読者へのメッセージ

今後ますます福祉人材の不足が懸念されています。高齢者の方との接点が少ないことも課題であり、人材不足の要因になっているのではないのでしょうか。幼いころから福祉学習を体験することで、何かのキッカケを作ることができ、サケのふ化放流のように「いずれは地元に戻って来る…」そんな期待を持ち、福祉授業にも携わらせて頂いております。

【施設の紹介】 社会福祉法人えりも町社会福祉協議会 <https://www.shakyo.or.jp/hp/150/>

所在地：幌泉郡えりも町字本町206番地（昭和53年設立）

事業内容：地域福祉事業、介護保険サービス（居宅介護支援、訪問介護）

障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護）、移送サービス



一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・
経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に
寄与している団体です。 ★ 新入会員募集中 ★

TEL&FAX 011-222-5200



ホームページ
はコチラ



入会のご案内
はコチラ

ご感想入力フォーム



「ふくし・かいご通信」をお読みいただきありがとうございます。
皆さまからのご感想をお待ちしております！！

社会福祉法人北海道社会福祉協議会



まろ はろ
マザーズヒーローワーク札幌



福祉人材センター

女性のための 福祉の仕事

キャリアセミナー

2024.9.10

10:30-
Tue 11:35

申込み
受付中

かでのる2.7 3F「310会議室」



北海道福祉人材センターでは、福祉職場への就職に関する相談を随時受付けて
おります。お気軽にお問合せください。

TEL 011-272-6662

発行：北海道福祉人材センター

